

日中友好協会 八王子支部 ニュース



みんなで参加・多彩な活動! 届けよう・大きな“わ”! 佐藤副支部長: FAX:042-645-8415

2023. 2. 11 春節の会 長房ふれあい館

「今日は楽しかったですか?」閉会の司会の問いかけに「好(ハオ)!!」の大きな返事。

コロナで3年ぶりとなった「春節を祝う会」は2月11日に開催されました。前日は大雪警報が出され、会場は初めてとなる長房ふれあい館。条件は決して良くなかったのですが、70人を超える参加者で大盛況となりました。

参加者のなかには創価大学の中国研究会の方もいて、「お互いを理解することが大事」という発言がありました。



いよいよ演目の開始。初めにバド・エルデネさんたち3人による、馬頭琴の演奏とホーミー。モンゴルの大草原が目の前に広がる

ようなすばらしい演奏に会場は静まりかえりました。口元を見ているとホーミーの発声方法が分からず、ただただ感嘆するのみです。圧倒される演奏にアンコールの声もかかりました。



次は八王子支部会員による太極拳の披露。ゆっくりした動作は筋力・持久力・柔軟性を養うのだそうです。参加のよびかけもありました。



中国の伝統楽器、二胡による演奏。初めは講師が趣のある音を響かせ、次に二胡教室のみなさんによる演奏。なつかしい曲に自然と会場から歌声がでました。「ふるさと」では気持ちよく皆さんで合唱。

休憩のあとは「春節の会」初めての尺八の演奏。なんと尺八は中国が発祥の地だとか。楽器の変遷も解説いただきました。

そして最後に中国の国家機密といわれる「変面」です。しなやかな動きに見入っていると、瞬時の変面に「おおーっ」というどよめき!!

面をとったあと、劉妍さんは京劇の歌の披露。今回は衣装もつけて京劇の紹介をしたいとのことでした。大きな拍手と「好(ハオ)」の声がより一層元気になれるというお話に会場からは拍手がなりやまず。

中国の書画が飾られた日中の文化交流の会場。書画はお持ち帰りもOKでした。

素晴らしい演技や演奏に皆さんの感嘆の声、そして笑顔があふれる「春節を祝う会」となりました。あつあつの餃子がお土産でした。

(加藤記)



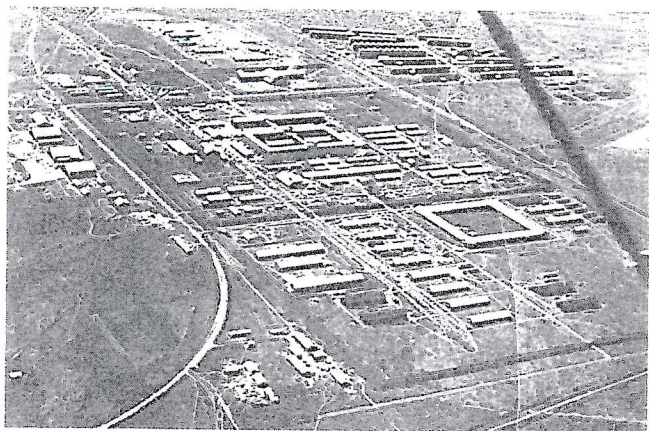
「731部隊」覚え書き⑦

生体実験のための施設

五井 信治

前回の記事では、長野県飯田市の731部隊の展示の仕方を問題にしました。731部隊の、書類、データなどは、国（防衛省）や大学がいろいろと持っていると思われていますが、それを無いことにしているのが現状だと思います。それゆえ国が731部隊の存在を認めながら、飯田市はなかなか731部隊の説明や隊員の証言パネルなどの展示ができないというのはおかしい話です。実際に体験者がいたわけですから、その証言ぐらいはきちんと展示すべきです。ここで飯田市が検討委員会を立ち上げ、展示について話し合っていくというので、その動きをこれからもみんなで注目していきたいと思えます。

下の写真は中国東北地方の平房にあった、731部隊の全景写真です。こんなにでかい6km四方の



施設を作り、細菌兵器の開発、製造をしていました。この731部隊の施設を作る前は、同じく中国東北地方の背蔭河（はいいんが）に、1932年ごろ、施設を作って研究・人体実験をやっていました。石井四郎は、そこでの実験の様子を、「1933年から34年に満州の馬賊を使ってコレラとペストの実験をし、ペストが有効であることを発見した」と後に部下に語っています。

勿論、この背蔭河の施設も極秘の施設で、列車が施設の付近を通るときには、カーテンで窓を塞ぎ、施設が見えないようにされたと言います。

また、1933年11月16日に背蔭河の施設を視察した関東軍参謀の遠藤三郎は日記に実験の様子を次のように記しています。

「第2班の担当は毒ガス、毒液の試験、第1班、電気の試験等に分かれ各〇〇匪賊2につき実験す。ホスゲンによる5分間のガス室実験の者は肺炎を起こし重体なるも昨日よりもなお、生存しあり。青酸15ミリ注射のものは約20分間にて意識

を失いたり。2万ボルト電流による電圧は数回実施せるも死に至らず、最後に注射により殺し、第2日目は5千ボルト電流による試験をまた数回に及ぶも死に至らず。最後に連続数分間の電流通過により焼死せしむ。午後1時半の列車にて帰京す。」その後、「夜、塚田大佐と午後11時半まで話し床に就きしも安眠し得ず」。

ここでは、「匪賊」（ひぞく）と書かれていますが、当時現地に昔から住んでいた人々で、少しでも日本軍に反抗でもしたら、捕らえられ、「匪賊」と呼ばれていました。

この記述でもわかるように、生体実験がこの頃から、頻繁に行われていました。日本国内（内地）では、できない生体実験ができるということで、細菌兵器開発に燃える一部の軍医や医学者にとっては、それは魅力的なものだったのかもしれない。生体実験では、生身の人間を使うわけですから、実験結果がすぐわかるということで、細菌兵器開発には、手っ取り早かったのです。

しかし、その背蔭河の施設で、1934年の秋に集団脱走事件が起こったため、そこを破壊し、撤退します。そして、新たに平房に1936年関東軍防疫部を編成して、巨大な施設建設に取り掛かり、2度と脱走事件が起きないように、ロ号棟という、3階建て（普通のビルの5階ぐらいの高さ）のロの字型の研究棟で、特設監獄（7棟、8棟と呼ばれた）を囲みます。施設が完成したのは、1939年～40年ぐらいでしょうか？

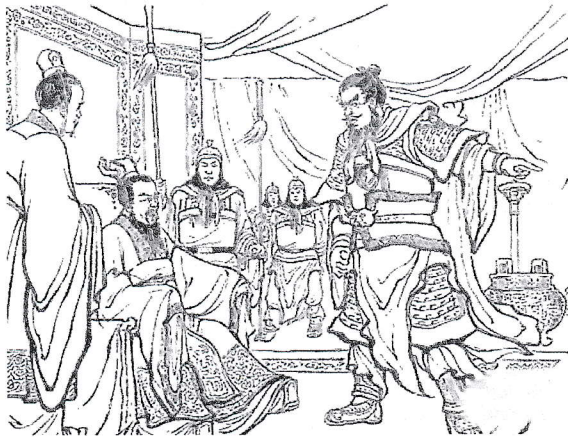
このロ号棟で、いろいろな細菌戦に使用する菌の研究や製造、ロ号棟の中庭に建てた特設監獄では、いろいろな生体実験、解剖などが行なわれています。この731部隊は、正式の陸軍の部隊ですが、国際法違反の細菌兵器製造や細菌戦をやるために、全て極秘裏に活動していました。

また、731部隊は、飛行機を10数機所有し



脱走者が逃げ込んだ程家崗という村

実験や
実戦に
使用し
ていま
した。



黄祖は襄陽に戻って劉表に会い、孫堅の兵力は強大で、抵抗しきれなかったと報告した。劉表はこれを聞くと慌てて、蒯良を呼んで相談した。(三国志演義連環図より)

公孫瓚のもとに長安から知らせが届いた。劉備を平原の相に任じるとの知らせであった。劉備は、平原に出立することとなった。劉備は、平原に出向く前、公孫瓚の配下である趙雲に呼び止められ、配下として加えてもらえるように懇願されたが、劉備は時が来た際にその誼を温めようと約束した。

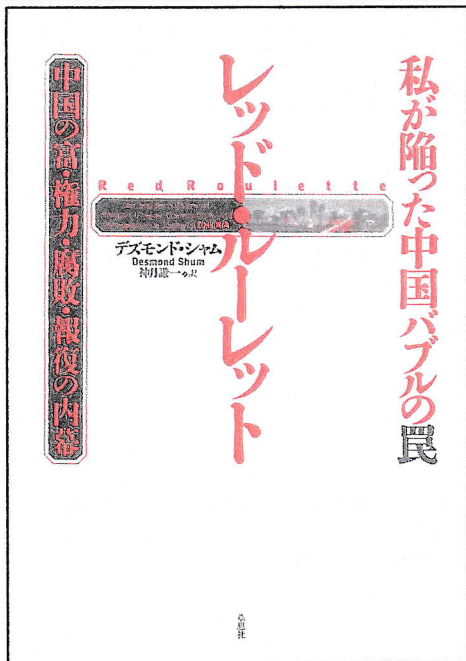
さて、ところ変わって南陽の袁術は兄袁紹に従い董卓を討たんと討伐軍に加わったにも関わらず恩賞が与えられないことに不満を有していた。また、折からの長雨によって領域内で食料不足が生じていた。袁術は、袁紹は頼りにならないと、荊州の劉表に兵糧を貸し出してくれるように使者を送った。しかしながら、劉表は兵糧の貸し出しを断った。袁術は、袁紹が劉表と通じ、袁術への支援を拒んでいると考えた。袁術は大いに怒ったが、それと同時に袁紹・劉表に恨みを抱いている人物がいること、この人物を利用して袁紹・劉表に痛打を与えようと思いついたのであった。その人物こそ、反董卓連合軍の際に袁紹から警戒され、兵糧を送られず潰走し、帰郷するときに劉表より追撃を受けた孫堅であった。袁術は、ともに劉表を討とうと孫堅に書状をしたためた。

孫堅の本拠、長沙は長江の支流にあり、水利に恵まれ、文化・兵備も活発であった。孫堅は、袁術を信用したわけではなかったものの、劉表への恨みはすさまじく、弟の孫静より劉表討伐の出兵を反対されたものの、これを断行することとなった。

後に孫堅の後を継ぎ、東の小霸王と呼ばれる孫策は初陣を飾ることとなる。

(埼玉県熊谷市 けやき総合法律事務所)

私の本棚 松澤正人



『私が陥った中国バブルの罠 レッドルーレット』 デズモンド・シャム著、神月謙一訳 (草思社・2860円)

本書は、中国で一代で財を成した、起業家である著者の回想録。

理事会メンバーの間世田さんから紹介をいただきました。中国現代小説。小説と言ってもほぼ現実暴露本。または告発本。アメリカで出版されたのち、日本語訳が出たもの。

著者の沈棟(デズモンド・シャム)は、上海の教師の家に生まれましたが、文化大革命で弾圧される家柄とされ、9歳の頃に香港に移り住んで育った。

文化大革命の時期から、天安門事件までの貧しい中国の生活実相が、エピソード豊かに描かれます。アメリカ留学から帰ってきた著者が投資関係の仕事につき、90年代末から2000年代初めの改革開放経済の上げ潮に乗ってチャイナドリームで大成功するわけですが、その為には権力者との裏の取引が行われます。そうした実態を告発した本。

中国政府の告発本を出版した彼に、出版直前に拘束されて行方不明だった元妻から「出版をキャンセルして」と告げる連絡があったとか。それほど内容が真実なのだろう。

中国のゼロコロナ政策に反対する運動が起きている。現代映画も実情を表すものが出てきています。この本は現在の中国の実情を知る1冊です。

山越拓児さんの
世相を映す替え歌⑦

「原発回帰止めよう」
～「ゲゲゲの鬼太郎」



♪ゲッ! ゲッ! 原発回帰
キシダ政権 閣議決定
恐ろしい 恐ろしい
福島事故の
反省も何にもない
ゲッ! ゲッ! 原発NO!
みんなで止めよう キシダ内閣

♪ゲッ! ゲッ! 原発回帰
財界要求 丸飲みだ
恐ろしい 恐ろしい
儲けのためだけ
責任取らぬまま
ゲッ! ゲッ! 原発NO!
みんなで止めよう 原発を

♪ゲッ! ゲッ! 原発回帰
パブコメの声に耳貸さず
恐ろしい 恐ろしい
原発新增設
安全な原発はない
ゲッ! ゲッ! 原発NO!
みんなで止めよう 原発を
みんなで止めよう 原発を
みんなでなくそう 原発を



《集合》 2023年4月2日(日)10:30
場所:聖蹟桜ヶ丘駅西口(日中友好の旗あり)
コース:公園までゆっくり歩いて約35分
バス利用は桜06系統で都立桜ヶ丘公園約10分
*現地(拓魂公苑)集合 11:30 拓魂碑前
参加費無料 弁当、敷物、雨具、マスク等は各自
服装 歩きやすい服装
参加連絡先 八王子 042-645-8411 佐藤
(当日 080-3126-3595 中道)

核兵器禁止条約に
日本も参加しよう!

原爆再稼働
新設絶対ダメ!

敵基地攻撃
(反撃能力)は
戦争をしかけること!

軍拡より
攻められない
外交を!

だれも
憲法変えるの
望んでない!

軍事費2倍は
くらしを壊す!

第92回
NO WAR! 八王子アクション
2023年3月19日 10:30~ JR八王子駅北口



中国と台湾の歴史に翻弄(ほんろう)
された元夫婦の悲喜こもごもを描き、
家族とはどうあるべきかを問い掛ける
人間ドラマ。(2010制作)

監督: 王全安

キャスト: リサ・ルー、リン・フォン

3月12日(日)13:30~
アミダステーション2階
資料代500円

八王子支部ホームページ <https://nittyuyukohachioji.web.fc2.com/>

日中友好新聞は、東北アジアの平和に役立つ確かな情報と中国の文化・歴史の豊かな情報を持つ、
月2回発行のタブロイド判8Pの新聞です。嫌・反中報道が溢れる中、公正・中立な報道をしています。
ぜひご購読下さい。
1ヶ月550円(送料込み)購読申込 042-645-8411:佐藤